



む け
無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

前
坊
守
葬
儀
御
礼

昨年11月28日、前坊守が還浄致しまして、12月17日に行った葬儀の折には大変お世話になりました。前坊守は、50年近く前に僧侶の資格も取り、前住職を補佐してまいりました。ご法事などにもお邪魔させていただきましたので、ご存じの方も多いかと存じます。また、一般家庭から寺という世界に入ってきたこともあり、当時は習慣や行うこともだいぶ違っていたと思いますので、大変だったろうと思います。

現在は、現坊守も若坊守も一般家庭の出身ですので、それほど違うことも無くなっているのではないだろうかと考えています。ただ寺なだけに、様々な行事があり、それなりに普通のご家庭とは違う部分もありますので、現坊守も若坊守もそれなりのご苦勞を戴いていることは否めません。

寺の行事の中で、最も大切かつ大きな行事は、報恩講になります。これは、親鸞聖人のご命日を通して、そのご苦勞に感謝申し上げる気持ちとともに、ご法要をお勤めさせていただく行事です。親鸞聖人が、法然聖人との出会いを通して、現在の私たちまで続くみ教えを伝えて下さった事への感謝のお勤めです。最も大切な教えとの出会いでもありますので、お餅を搗いて綺麗な色で彩色してお内陣にお飾りを致します。今では、餅つきも機械になりましたが、それでも餅を丸くくり抜いたり、その餅を串に通したり、色を付けるという作業は人の手でっております。その時、先頭に立って作業をしていたのが、前坊守でした。特にこの5年



は、ご門徒のお手伝いを戴かなくなっており、寺の手だけで行っておりましたのでなおさらでした。昨年の11月18・19日の報恩講の時にも、11月14日に餅つきを行い、次の15日に餅を串を通して彩色したのですが、その時も一生懸命仕事をしておりました。そのように元気に仕事をしておりましたので、その2週間後にお浄土に還るとは露ほども思っておりませんでした。

本願寺八代門主、蓮如上人のお手紙の中に「朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり」と言う言葉がございます。元気な姿であっても、いつ命終わるかわからない身である、と言うお言葉でしょう。11時まで元気な姿であった母が、その数分後には吐血をしてみるみるうちに生気がなくなっていき、心拍も取れなくなっていくその姿を見て、蓮如上人のそのお言葉が頭の中に浮かんでまいりました。前坊守として、そして母としての、残る私たち家族やご門徒の皆さまへの最後の教えとして「諸行無常の理」を教えて下さったのだなあを受け止めさせていただいた次第です。母が、父と結婚して67年ほどになることですが、その間ご門徒の皆さまには大変お世話になったことと存じます。この長きにわたるご厚情に感謝申し上げますとともに、今後とも母同様よろしくお育て下さいますよう念じ上げます。

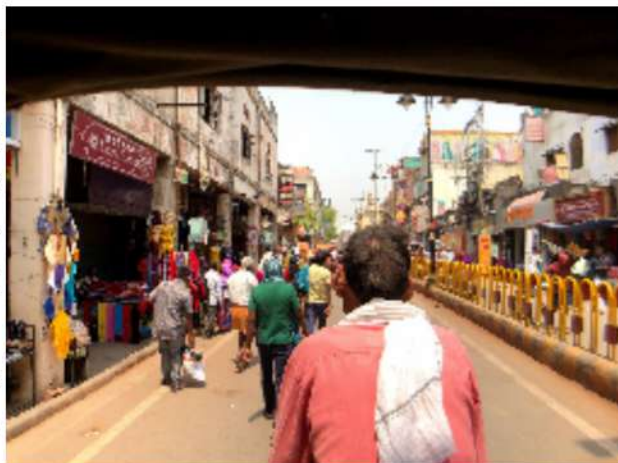
佐竹 知信

(第3回) ※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

お釈迦様の生涯 3 初転法輪 その1

前回書いたように、お釈迦様はご自身が見つけれられた真理を人々に解くかどうかを迷われました。この理由は、言葉を持って伝えられるだろうかという不安があったものと思われます。しかしお釈迦様は、教えを説くことに踏み切りました。それは、悟りの内容が他の人に伝わって初めて意義のあるものになるということや、お釈迦様の悟られた教えが、この世界の全ては縁起によって成り立っているという真理であるため、自分自身だけの中にその真理を留めておくことが許されなかったということでしょう。

お釈迦様は、悟られた内容を誰に説けば理解してくれるだろうかと考えます。そこでまず最初に考えたのは、自身が就いて修行をし、最高の瞑想を習得し、考え方も大変似通っていたアラーダとルドラカでしたが、残念なことにそのお二人はお亡くなりになっていることを知ります。その為、次に6年間の苦行をした時代に、自分と一緒に苦行に身を置いていた5人の修行者に説くことを考えました。



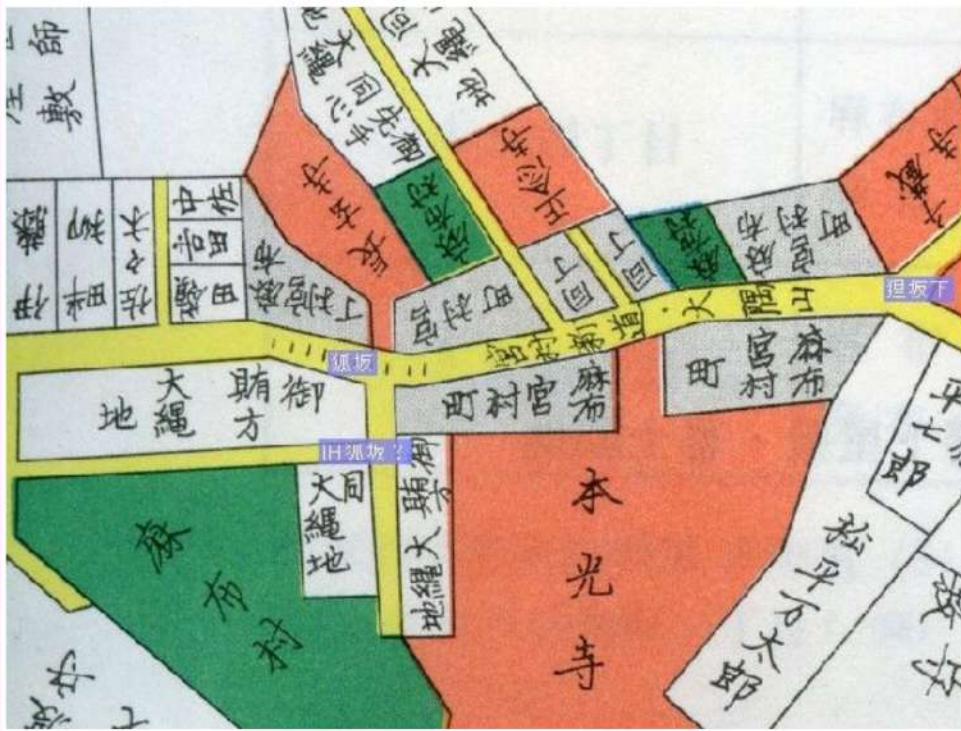
彼らならば悟りの中身を理解できるであろうという確信があったと言われます。そこで、5人が修行しているヴァーラーナシー(ベナレス)の苦行林に向かいました。ブッダガヤーから苦行林までは、およそ200キロの道のりで、10日間かけて歩いていきます。

ヴァーラーナシーに向かう途中で、ウパカと言う厳しい修行をするアージーヴァカ教徒に出会った。その時ウパカは、お釈迦様に向かって「あなたの要望を見ると、ただ者ではないように見受けられる。あなたは、誰について出家して誰を師としているのですか？誰の教えを信奉していますか。」と問いかけました。それに対して、お釈迦様は「私は全てに打ち勝って悟ったものです。自ら悟りを開いたもので、師と呼ぶ人はいません。世界中に私に匹敵するような人はいないので。私は完全な悟りを開いたのです。この教えを多くの人々に説くためにカーシーの国に行こうと思っているのです。」ウパカは、「あなたは最高の勝利者なのですね。」と言うと、お釈迦様は「誰でも心の迷いを除き尽くせば、私と同じ勝利者となるのです。」と答えた。この言葉を聞いたウパカは、「きっとそうなのでしょう。」と気のない返事をして首を振り振り去って行きました。このウパカは、将来お釈迦様の元で出家して弟子となるのですが、この時はまだ機が熟していなかったということでしょう。

(次号へ続く)

それぞれの画像は、現在のヴァーラーナシー(ベナレス)の姿





正念寺があった場所を示す江戸時代の古地図です。現在の東京都港区元麻布3丁目付近になります。隣接の長玄寺様や本光寺様は、同じ浄土真宗本願寺派の御寺院で、現在も同じ地にございます。

他にも各宗派のご寺院も存在していたり、大使館や沢山のマンションなどもあり、少し足を伸ばせば六本木ヒルズなどもある、都心部としては比較的閑静な土地の様な気がします。

江戸時代から明治維新を通して、日本の歴史の転換点を見て

きた土地だったかもしれません。今では、ここに正念寺があったことをうかがい知ることも出来ませんが、そんなことを考えていると何か歴史のロマンを感じたり致します。



麻布にあった正念寺が、現在地に移って120年を超えようとしておりますが、願入寺の時代から数えますと、700年を超える歴史を有しております。長い歴史の中で、様々な時代の移り変わりを見てきた寺院を、次の時代に引き継ぐのも、現代を生きる私たちの役割でもあろうかと考えます。

ご門徒の皆さまと共に歩める寺院である事を、今後とも目指して歩を進めたいと考えます。

長男誕生の報告

この度、副住職夫妻に第二子(長男)が誕生致しました。2月17日午後2時29分に体重3210g・身長49cmで元気に生まれました。今後とも皆さまにはお世話になるかと思いますが、長女ともどもどうぞ子育てをよろしくお願いたします。



感謝録

前回の寺報に記載以降にお仏
供米をご奉納戴きました。

ここに謹んでご報告させていただきます。

(2月12日現在)

那珂市
片岡 満 様

* 記載が漏れた方がありましたら、ご連絡ください。

正念寺ホームページ「仏教四方山話」より

地獄

私たちは、ともすると腹を立て、相手の非を責め立てます。でもよく考えてみて下さい。腹を立てて、相手を責め立てるその心そのまま、私の地獄そのものではないでしょうか。

相手に対して腹を立てている時、自分だけは正しいと思っていませんか？相手を責め立てている時、自分は正義だと思っていませんか？

でも、そう思うその心そのまま、我執であるとお釈迦様は仰います。自分中心の考えに囚われている為、自分は正しく相手が間違っていると信じ込んでいる心が、実は自分と他者に溝を作り、その関係にヒビを入れてしまっているのではないのでしょうか？

でも、正しいと思いこんでいる自分だって、実は過ちを犯してしまう普通の人間に過ぎないと思うのです。そこをしっかりと受け止める事が出来れば、相手を責め立てたり、腹を立てたりする事も少なくなると思うのですが…

ホームページのご案内

正念寺ホームページには、今までの寺報やちょっとした仏教の話、寺の縁起などもあります。浄土真宗本願寺派正念寺で検索していただくと表示されます。

スマートフォンなどからは、下記QRコードを読み込んで下さい。

また、ホームページからYouTubeの正念寺チャンネルへも行けますので、是非お楽しみ下さい。



これからの行事予定

3月 8日(水)13時半～	永代経法要
3月21日(火)11時～	久遠廟法要
4月 8日(土)10時半～	聞法会
4月 9日(日)14時～	花祭りコンサート
4月25日(火) 9時～	清掃奉仕
5月 8日(月)10時～	聞法会
5月30日(火) 9時～	清掃奉仕
6月 8日(木)10時～	聞法会
6月27日(火) 9時～	清掃奉仕
7月 8日(土)10時～	聞法会
7月25日(火) 8時～	清掃奉仕
8月 1日(火)13時半～	仏具磨き
8月 9日(水)10時～	那珂地区
歡喜会法要 14時～	常陸太田地区
8月16日(水)11時～	久遠廟法要
8月29日(火)8時～	清掃奉仕

住職雑感

水戸の百貨店で不正受給が発覚しました。県内では、唯一の百貨店だけに事件の反響も大きいようです。百貨店自体が斜陽であるところに、感染症の問題が起き、少しでも収入を増やしたいと思ってしまったのでしょうか。茨城県仏教会にも、色々と協賛頂いておりましたから、非常に残念な事件でした。

浜の真砂は尽きるとも世に盗人の種は尽きまじ、とは石川五右衛門の辞世の句と言われておりますが、不正受給ばかりで無く、SNSなどを通じた様々な事件も新聞・テレビなど様々なメディアを通して報じられております。それだけ、後先考えずに欲望のままに行動する人が、増えたと言うことなのではないでしょうか。

法句経に「その罪業の熟するまで愚かの人をこれを蜜のごとしと思ひ、その罪まさに熟する日、彼ははじめて苦しみを嘗む」とあります。私たちは、罪が熟して苦しみを受けた時には、時既に遅し、とやることを知る事になるのでしょうか。